

《児童アンケート結果より》

今年度も新型コロナウイルス感染症の防止のため、制限された中での教育活動になり、予定されていた行事や校外学習等も実施できないものもたくさんありました。しかし、子どもたちはそんな状況下でも、自分たちにできることを考えながら学校生活を楽しんでいたように思われます。今年度のアンケート結果もわかるように、ほとんどの項目で9割近い児童が「よくできた」「まあまあできた」と肯定的な回答で、子どもたちの生活が安定していると考えられます。

【地域（まち）や家での生活について】

「① 家の人や地域の人に挨拶をしている。」という項目では、「よくできた」「まあまあできた」の合計は93%で、年々挨拶をする児童が増え、黄帽の着用も定着してきました。安全リーダーさんをはじめ少年補導委員さん、地域委員さんや保護者の方々のご協力の成果です。99%を示した「②交通ルールを守り、交通安全や不審者に気をつけている。」や、96%を示した「③家族とよく話をしている。」と合わせて、今後も大切に取り組んでいきたいと思えます。

「④家の手伝いをよくしている。」「⑤進んで整理・整頓をしている。」という項目も共に肯定的な回答が8割を超えていますし、「⑥忘れ物に気をつけ、宿題を最後までがんばっている」という項目も肯定的な回答が93%と、子どもたちの意識の高さをうかがえます。これらの項目については家庭と学校とが一緒になって取り組むことで、子どもたちをよりよく成長させることとなります。引き続き、ご協力をお願いします。

【学校生活について】

「⑦学校のきまりを守って生活している」の項目では、「よくできた」「まあまあできた」が、97%を示しました。ルールやマナーを守って生活する児童が多いことは、青山小学校の最も誇れるところですが、学校で生活する上でお互いが気持ちよく過ごすことができるように、今後も引き続き指導を続けていきます。

「⑧進んで発表したり、楽しく話し合ったりしている。」については、コロナ禍ということもあり、話し合い活動等も制限されていたためか、肯定的な回答が81%でした。これまで取り組んできた「学び合い」を取り入れた学習の成果が現れているとはいえ、今後も感染症対策を踏まえながら発表の場を設定していきたいと考えています。また、「⑨先生の話をよく聞き、勉強がよくわかる」の質問では、1割の児童が「あまりできていない」「できていない」と感じています。この数値を重く受け止め、子どもたちの声や姿を丁寧に受け止め、一人ひとりが「わかる」「できた」を実感できる授業づくりに努めていきます。

「⑩進んで読書をしている。」の項目では、肯定的な回答した児童が71%と昨年より10%近く下回っています。4年生以上でICTの時間が増え朝読書の時間が減ったことにも一因があると考えられます。今後読書指導をどのように進めていくか考えていきたいと思えます。

「⑬友達と楽しく過ごし、みんなのことを大切にしている」「⑭係や当番活動を進んでしている」は肯定的な回答が9割を大きく超えています。ここからも子どもたちが学校生活を楽しんでいる様子がよくわかります。

「⑮困ったことがおきたら、先生や家の人に相談している」の項目では、肯定的な回答は86%でした。日常の関りだけでなく、「マンスリーアンケート」「おしゃべり月間」を活用し、子どもたちと対話を繰り返し、子どもたちの心の様子や変化について把握できる機会をできるだけ多く設け、「何でも話せる学校、先生、学級、友達」づくりをめざして努力を重ねて参ります。